

## 新たに4事業所を 小鹿野町消防団協力事業所に認定しました



小鹿野町消防団に積極的に協力している事業所又はその他の団体に対して、「小鹿野町消防団協力事業所」として認定し、表示証を交付する制度があります。平成30年度中においては、4つの事業所から申請があり、内容を審査した結果、消防団活動への配慮に対し積極的に配慮しているなどの条件に適合しているため、小鹿野町消防団協力事業所として認定いたしました。

### 新規認定事業所 ※( )内は所在地

- 有限会社 長若建設(長留)
- 株式会社 岩田組(両神薄)
- 株式会社 両岩(両神薄)
- 株式会社 荒川瀧石(秩父市荒川)  
(認定順)

なお、すでに認定を行っている事業所は、次の6事業所で、今回の認定で合計10事業所が認定されています。

- ①株式会社 秩父富士(小鹿野)、②株式会社 秩父富士長若工場(般若)、
- ③株式会社 秩父富士両神工場(両神薄)、④株式会社 山口組(秩父市大野原)、
- ⑤株式会社 ヤマホン(秩父市大野原)、⑥株式会社 ふるさと両神(両神薄)  
(認定順)

問合せ ● 小鹿野庁舎・総務課 ☎75-1225

こんにちは。  
町長です。



## 今後10年間のまちづくりの基本的方向性や 目標を示す町の基本構想を取りまとめました

平成31年度がスタートいたしました。平成の時代が終わり新しい時代が本年5月から始まります。到来する時代が国民にとっても小鹿野町民にとっても平和で輝かしいものになってもらいたいと思っております。

そのような時代の節目の中で、町が目指すまちづくりの基本的方向や目標を示し、これからのまちの将来像や重点目標と基本戦略、取り組むべき施策の大綱を示す基本構想を取りまとめました。この構想の期間は2019年度から2028年度の10年間となります。この構想を具体化するための施策の方向性を定めた基本計画も策定いたしました。この基本計画の期間は2019年度から2023年度までの5年間となります。

この基本構想は、副題に「持続可能で幸せなまちづくりに向けた十年を築くために」として、まちの将来像を「文化の香り高く将来に躍動するまち」としました。具体的には、

- (1) 人口9,000人を超えるまち(2028年度)
- (2) 地域経済の活発なまち
- (3) 町民一人ひとりが活躍するまち
- (4) 住むことに誇りを持てるまち

この将来像の実現に向けた重点目標を次の3つとします。

- ①働く場の創出
- ②安心して産み育てられるまちづくり
- ③いつまでも元気で、自分らしく暮らせるまちづくり

この3つの重点目標を実現するための基本戦略として、町民の皆様とともに地域の課題に取り組む「自治力」と、まちの魅力を創造・発掘し、町内外に発信していく「ブランド力」の2つの力をもって推進します。

施策の大綱として、次の5つの基本目標を掲げます。

- 基本目標1** 人口減少にまけない小さくても輝き続けるまち
- 基本目標2** 本町の自然や特性を活かした地域経済の創生
- 基本目標3** かがやく未来へおがの人づくり
- 基本目標4** すべての世代に配慮された社会保障の充実
- 基本目標5** 快適で安心して暮らせる環境の整備

この基本構想に沿ったまちづくりを進めるに当たっては、町としては今後更に厳しい財政状況が予測される中、経費削減に努め投資的な経費を捻出して、町民の皆様と力を合わせ力強く進むことが必要だと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎

## 町長の まち・ひと・しごと 魅力発信

～ 事業所訪問 vol.13 ～

## 「株式会社 ふるさと両神」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。



ゼリー充填機の説明を受ける森町長

### 町長の見て・聞いて・話して

第13回の事業所訪問は、1月23日に株式会社ふるさと両神を訪問し、宮下静雄社長にお話を伺いました。

株式会社ふるさと両神は、前身の農協時代から全国に先駆け原料から製品まで、生産農家の経営の安定をはかり栽培農家との契約、消費者に“顔の見える産地”として、昭和45年(1970年)からこんにゃく食品製造を開始しました。

生産者との契約栽培により“安心と安全”な商品が造られていました。また、秩父地方は石灰の地質で水質に優れ、特にアルカリ質の豊富な秩父古生層の土壌と山がちな地形が最適で埼玉県内で生産される“こんにゃく芋”の99%は秩父地域で生産されていました。

案内していただいた工場内はこんにゃく製造部門、ゼリー製造部門、惣菜製造部門に分けられており、こんにゃく製造部門ではこんにゃくの成型加工用の大型装置が設置され、“秩父こんにゃく”として、70種類もの商品は大手デパート、大型スーパー、JA直売所等多数の店舗で販売されていました。

ゼリー製造部門では、学校給食をはじめとする業務用ゼリーや小売販売用のフルーツゼリーなど、数十種類の製造を手掛けているほか、夏場は1日に3万から4万個と製造が追いつかないほどのギフト用ゼリーが人気で、お客様から喜ばれる商品開発に取り組んでいました。



宮下社長(左)

近年、秩父地域内のこんにゃく生産者が減少していることや天候に左右されるため、生芋の確保が難しい状況の中で生産者を守る、秩父産のこんにゃくをなんとか活かしていきたいと熱く語る姿は地元への思いが伝わるとともに地域の発展を担う企業であると感じました。

### わが社の主力商品

秩父産のこんにゃく芋を使用し、昔ながらの製法(木枠)で造られたこんにゃくは、風味、味しみも良く、埼玉県の「ふるさと認証食品」や「彩の国優良ブランド品」に認定されているほか、健康志向のこんにゃくは、海外でも人気商品となっています。

また、自社で製造した歯応えの良いこんにゃくを独自のレシピで味付けし、飽きのこない惣菜を製造しています。

近年は、ギフト用のフルーツゼリーの人気とともにフルーツソルベ(ゼリーを凍らせた商品)も多くの方々に召し上がっていただいております。

### ここに自信あり

わが社では県内でも数台しかない、加圧加熱殺菌(レトルト殺菌)機器でお客様の様々な要望にお応えしています。殺菌温度、圧力、時間、履歴などが全てコンピューターで管理ができるため、「安全」で「おいしい」レトルト食品の研究・開発に携わらせていただいております。



大玉こんにゃく芋(12.1kg)とイチオシ商品!

### 会社概要

- 代表者 代表取締役 宮下静雄
- 従業員数 35名
- 創業 1970年
- 所在地 小鹿野町両神薄1036-3
- 電話 0494-79-1130